

会 議 概 要

会議の名称	第3次社会教育中期計画策定に係る第2回第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議
開催日時	令和4年8月31日（水） 18時30分 開会 20時00分 閉会
開催場所	文化センターさざ波 2階団体研修室
出席者名	平野委員、工藤委員、鈴木委員、杉原委員、高野委員 5名 教委～坂本課長、渡辺主査
欠席者名	なし
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 議 事 議案第1号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について 3. 閉 会
会議資料	第3次社会教育中期計画策定に係る第2回第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

てん末書

1 日 時

令和4年8月31日(水) 18時30分～20時00分

2 会 場

文化センターさざ波 2階団体研修室

3 会議及び用務

第3次社会教育中期計画策定に係る第2回 第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議

4 出席者

部会担当委員～平野、工藤、鈴木、杉原、高野各委員 5名（欠席なし）

オブザーバー～深谷委員長

教委～坂本課長、渡辺主査

5 結果要旨

1. 開 会
2. 深谷委員長あいさつ
3. 平野部会長あいさつ
4. 議 事

○議案第1号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について～会議結果反映後の文章は別添のとおり

【少年教育に係る主な意見】

（平野委員）：少年教育に関する現在の状況でキーワードとして「少子化」「インターネット」「地域活動の減少」が挙げられる。

●キーワード①「少子化」

- ・義務教育学校という流れができた。（地域活動の減少）
- ・習い事、少年団、子ども会で子どもの奪い合いとなっており、子ど

もは忙しい。

- ・選択肢が多いのはいい事ではあるが、地元に着しづらい。1次2次産業は大切だという事があまりわかっていない。
- ・大人の役割は見守る、応援することで良い関係を作ること、その潤滑油として社会教育があると思う。

●キーワード②「インターネット」

- ・Z世代と言われている25歳以下の世代は時間、情報に対する概念が我々大人とは違う。
- ・ネットは「良いとこ取り」で何でもマニュアル化されている。
- ・情報過多で情報に振り回されている。様々な趣味や価値観がありすぎて、他者と関わりが少なく孤立するか、少数で集まる傾向があり、それでまたSNSなどにのめりこむ。
- ・インターネットの影響で本を読む機会が減っており、読解力が低下している。言葉の表現力もない。

●キーワード③「地域活動の減少」

- ・コロナの影響もあって親同士のつながりが少なく、地域活動に対する親の関心が減少している。
- ・自然に触れあったり、色々な体感、体験をさせるというのは「生きる力」を育むということ。関心がある親とない親の二極化が進んでいる。
- ・コミュニティ形成とは地域との結びつきが基本となる。地域あつての社会教育だと思うので、地域の枠組みを再考する必要があるのではないか。

(高野委員)：表現力の低下などは教育現場でも問題になっていて、現在、個性を生かすという教育方針に変わっている。(個別最適化) そのあたりは学校教育でも行っているので、社会教育としては「異世代間交流」であるとか、「地域との連携」といった部分を押し出していくべき。

○その他 次回の部会は10/12(水)文化センターさざ波

2階団体研修室 18時30分～

第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（少年教育）検討資料

第2次社会教育中期計画（素案）	第3次社会教育中期計画（会議反映後）	備考
<p style="text-align: center;">第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【少年教育の現状と課題】 現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。 多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせたコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。 また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れています。が、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。 このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。 現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会において、<u>既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。</u> しかし、<u>これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、</u>リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。</p> <p><今後の課題> ○ 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。 ○ 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。 ○ 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。 ○ 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。</p>	<p style="text-align: center;">第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【少年教育の現状と課題】 現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。 多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせたコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。 また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れています。が、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。 このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。 現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会を<u>実施しています。</u> しかし、<u>前述した事業と同様に指導センターにおける取組みにおいても参加者数が減少しており、</u>リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりや<u>地域同士の連携</u>を視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。 <u>さらに今後、部活動の地域移行に関する検討を進め、学校と地域が連携、協働を深めていく必要があり、少年教育の受け皿としての地域団体の重要性が高まっています。</u></p> <p><今後の課題> ○ 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。 ○ 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。 ○ 小学生から高校生・青年・<u>地域</u>まで連携した事業の展開が必要です。 ○ 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。 ○ <u>少年教育の受け皿としての地域団体の支援・育成が必要です。</u></p>	

令和4年度

令和4年度 第3次社会教育中期計画策定に係る第2回 第1部会(基盤整備・少年教育・青年教育)会議

と き 令和4年8月31日(水)
午後6時30分

ところ 文化センターさざ波 2階団体研修室

<会議日程>

1. 部会長あいさつ ・ 開会

2. 議 事

議案第1号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について

その他

3. 部会長あいさつ ・ 閉会

湧別町教育委員会

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標	生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう
---------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	体学 制習 整推 備進	●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。	・社会教育関連事業の周知に努めるなど、これまでどおり関係機関や団体との連携強化に取り組んでいる。	
		●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。	・団体が自主的に学習活動を行うための人的支援、場所の提供、金銭的支援のほか、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図っている。	・オンラインを活用した取り組みをどう中期計画に盛り込むか検討が必要
	活施 用設 ・整 連備 携・	●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。	・指定管理施設については、指定管理者への指導助言を行っている。 ・指定管理施設とそれ以外の施設についても連携を強化し、効率的な活用を図るなど学習サービスの向上に努めている。	
		●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。		
	学習 相 談 体 制 の 取 集 提 供 ・	●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。	・生涯学習情報紙「湧く湧く」発行にあたっては、わかりやすい紙面づくりに努めているほか、かわらばん、町ホームページ、遠軽地区なななんと情報を活用し情報提供をしている。	
		●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実を努めます。	・多様化する学習ニーズに対応するため、相談体制の充実を努めている。	
	用指 導者 の 活 動 支 援	●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。	・人材育成に向けて、活動の機会や情報の提供に努めているものの、計画的・組織的な指導者養成はできていない状況である。	
		●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。	・生涯学習振興奨励事業の活用により、サークル等の自主的な学習活動に対する支援に努めている。	
		●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。	・実行委員などボランティアとして事業に参画した方々については、地域活動のリーダーとして活躍の場の提供につながっている。	
	連携 ワ ー ク ・ ネ ッ ト	●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。	・青少年健全育成町民会議などに参画するなど、連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めている。	
	●生涯学習に関する情報を収集、データベース化し、ガイドブック等の発行を検討します。	・生涯学習に関する情報収集は行っているものの、ガイドブックの発行については進んでいない。		

(推進目標と推進項目)

少年教育 推進目標	少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう
--------------	----------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動を提供し、豊かな人間性の養成を図る。	・児童宿泊研修会、湧くわく体験塾、湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業などを主催し、さまざまな体験学習活動の機会を提供している。また、百人一首教室や子ども会事業を支援している。	・体験塾、チャレスポなど少年を対象とした事業の参加者が増えている。継続していきたい。
		●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を提供し、充実を図る。	・青少年指導センターの主催により、全町の小中学生を対象としたスポーツ事業を開催している。	
	活動支援等	●子ども会や青少年指導センターを支援する。	・地区子ども会の連合組織である青少年指導センターが実施する事業に対し補助金による支援を行っているほか、事務局業務を担い支援している。 ・湧別地区では「湧別地区サポート協議会」が各子ども会を取りまとめる組織として活動している。 ・遠軽町、佐呂間町とで組織する遠軽ブロック子ども会連合会はR2年度末に解散となった。	・児童数の減少とコロナの影響もあって単位子ども会では人が集まらない状況。コロナ禍の中で役職の引継ぎもうまくいかず中断されてしまった。 ・目的、意義を考えれば参加人数は評価に関係ない。評価すべきは「つながりを作ることができたか」人数が少なければ一体感が生まれる。
		●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。	・高齢者大学による小学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を行っている。 ・湧くわく体験塾では講師に地域の人材を活用しており、地域教育力の向上を図っている。	
	学習環境づくり	●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。	・年に2回のリーダー研修会を開催し、地域子ども会のリーダーとして必要な知識や技術の習得を図っている。	・リーダーを養成しようという働きかけは大事。
		●地域の成人指導者の活用を図る。	・リーダー研修会では青少年指導センターの青少年指導員を活用して実施、百人一首教室では実行委員会の指導者を活用して実施している。	
		●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。	・子どもを対象とした冬季事業などを自主開催し、地域を活性化する活動を展開している青年団体協議会の活動支援を行い、次世代につながる指導者の養成を図っている。 ・取組みの成果として子ども会のリーダークラブOBから青少年指導員となった好事例がある。	
	ネットワーク	●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。	・学校と社会教育が連携し、授業の一環として町内の全小学5年生を対象に児童宿泊研修会を実施している。	
		●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。	・小学生低学年を対象にチャレンジスポーツを開催し、日頃接することの少ないさまざまなスポーツの楽しさを味わってもらおう。	
		●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。	・湧くわく体験塾では関係団体と連携を図り、講師として指導をお願いしている。	
●学校の求めに応じ、コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う。		・地域と学校関係者で組織する学校運営協議会による事業として、高齢者との昔遊び、ふれあいふるさと集会などの実施している。		

(推進目標と推進項目)

青年教育 推進目標	青年は町の原動力 自らを磨き高めよう
--------------	--------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年団体協議会など研修会の対象と考えられる関係機関に案内を行い参加を奨励している。 ・新たに社会の一員となる20歳の方々の祝い励ますため式典を開催している。 ・ボランティアによる軽食の提供は地場産品の消費を促し、最後の食育の機会として実施している。 ・R3年度から「20歳の集い」と名称を変更し、成人年齢の引き下げ後も20歳を対象としている。 	
	の活動支援等	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生リーダークラブ「Rainbow prop」や湧別高校ボランティア同好会等と連携し、社会教育事業の参加などの支援をしている。 	
	の活動支援等	<ul style="list-style-type: none"> ●青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の活動に対して助言等を行うとともに、青年会館の提供や運営費の補助を継続している。主催事業の「雪中ドッチボール大会」では、子ども会会員から事業の参加者を募り、大会当日の支援を行っている。 	
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設） ●若い女性の社会参加を図る。 ●団体リーダーの養成と活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町部局で進める「産業間ネットワーク」では、商工会・漁協・農協などの青年・女性組織が協議する場が提供されているものの、「まちづくり青年会議」の創設には至っていない。 ・女性を対象にした事業展開は進んでいないのが現状。社会教育が果たすべき役割を模索している。 ・青年団体協議会の自主的な活動を通じリーダーの養成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・湧別青年団体協議会のような不特定多数の目的を持った集団を自主的に立ち上げるのは難しい。立ち上げるためには目的が必要であり、ニーズの把握が必要。 ・漁組青年部では具体的なオファーがあれば協力することは可能だと思う。各団体が協力参加できるような事業を作ることが大事。 ・若く結婚して子どもがいる家庭が多いように思う。育親子で参加できる事業があれば女性の社会参加推進につながるのではないかな。 ・リーダーを育てて各組織を引っ張る人材を育てるというよりは、担い手を育成するという考えに変えた方がいいのではないかな。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会青年部の主催イベントに漁協青年部、JAゆうべつ青年部、JAえんゆう青年部、上湧別青年団体協議会が協力するなど青年同士の連携が見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年に関しては実態が見えないため検討が難しい。若い人たちの意見をリサーチする必要がある。 ・指導者の数が少なくなっていく事などマイナスの要素を検証し事業を組み立てていくことが必要。 	